

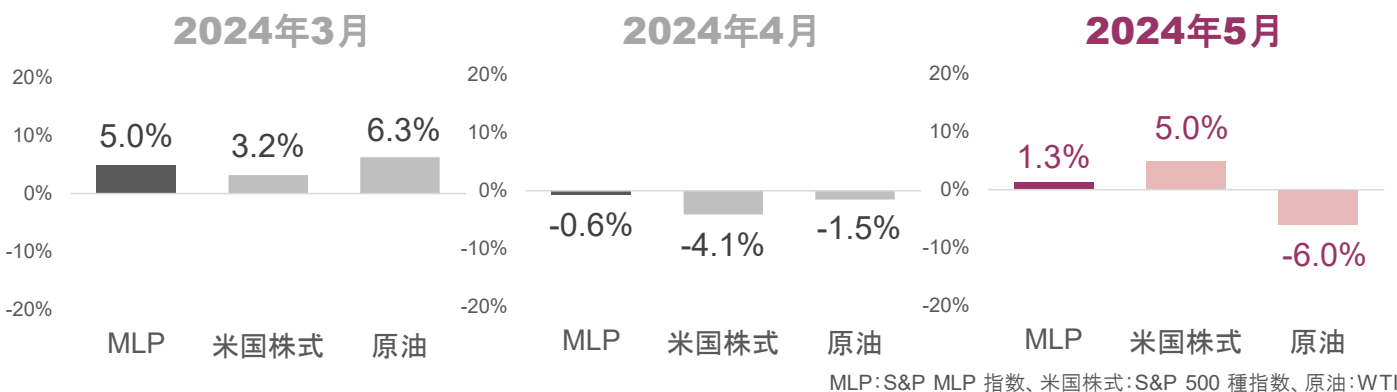
当月のS&P MLP 指数の動き

5月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+1.3%と2ヵ月ぶりの上昇となりました。

月初に発表された米雇用統計を受け、年後半の利下げ観測が強まったことなどを背景に、米主要株価3指数が最高値を更新する中、MLPも月半ば過ぎまで堅調な推移となり、20日には年初来高値を更新しました。その後、原油価格の下落に加え、5月の米FOMC(連邦公開市場委員会)の議事要旨を受けた利下げ観測の後退などに伴ない米国株式が下落したことから、MLPも軟調な推移となったものの、S&P MLP 指数は、月間ベースでプラスを維持しました。

過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)



主要指標の動き

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3ヵ月前月末	前年末	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比
	2024/5/31	2024/4/30	2024/2/29	2023/12/31			
S&P MLP 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	8,410.37	8,305.84	7,960.14	7,384.81	1.3%	5.7%	13.9%
プライスリターン	1,643.14	1,641.57	1,586.95	1,500.43	0.1%	3.5%	9.5%
S&P 500種 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	11,494.70	10,951.66	11,062.11	10,327.83	5.0%	3.9%	11.3%
プライスリターン	5,277.51	5,035.69	5,096.27	4,769.83	4.8%	3.6%	10.6%
S&P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,595.55	1,601.74	1,459.35	1,419.77	-0.4%	9.3%	12.4%
プライスリターン	708.04	714.95	653.14	640.05	-1.0%	8.4%	10.6%
S&P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,633.37	1,561.39	1,648.33	1,686.38	4.6%	-0.9%	-3.1%
プライスリターン	323.84	310.01	330.15	338.75	4.5%	-1.9%	-4.4%
米国ハイイールド債 (ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))							
トータルリターン	1,616.32	1,598.18	1,595.32	1,590.32	1.1%	1.3%	1.6%
プライスリターン	67.56	67.17	67.78	68.29	0.6%	-0.3%	-1.1%
米国10年国債利回り	4.50%	4.68%	4.25%	3.88%	-0.18	0.25	0.62
原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり	76.99	81.93	78.26	71.65	-6.0%	-1.6%	7.5%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり	2.59	1.99	1.86	2.51	29.9%	39.1%	2.9%
米ドル(対円)	157.31	157.80	149.98	141.04	-0.3%	4.9%	11.5%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

- 3日に米国で発表された、4月の非農業部門雇用者数が前月比+17.5万人と、予想を下回った。また、失業率が3.9%と、予想を上回ったほか、平均時給は前年同月比+3.9%と、予想以上に鈍化し、2021年6月以来の小幅な伸びとなった。米国債利回りは、雇用統計の発表を受け、年後半の米利下げ観測が強まったことなどから低下した。米株式市場は、前日の米主要IT企業からの業績見通しや増配・自社株買いの発表が好感されたことなどもあり、ハイテク株を中心に上昇した。
- 15日に発表された、4月の米消費者物価指数は、全体で前年同月比+3.4%と、3ヵ月ぶりに伸び率が鈍化したほか、コアでは+3.6%と、2021年4月以来の低い水準となった。利下げ観測が強まり、米国債利回りが低下したほか、米国株はハイテク株を中心に上昇した。
- 22日、米国において4月30日から5月1日にかけて開かれたFOMCの議事要旨が公表され、インフレ率が持続的に物価目標に向かいつつあるとの確信が強まるまでには、従来の想定以上に時間がかかりそうだと記されたほか、正当化されれば追加利上げにも前向きだと様々な参加者が言及したことが明らかになった。利下げ観測が後退し、国債利回りが上昇したほか、株式相場は反落した。原油先物は、米週間統計で原油在庫が予想に反して増加したことや、米利下げ観測の後退などを受けて売られた。
- 30日に発表された1-3月期の米GDP改定値は前期比年率+1.3%と、速報から0.3ポイント下方修正となった。また、25日までの週の新規失業保険申請件数が3週ぶりに増加(悪化)し、予想も上回った。ニューヨーク連銀総裁は、金融政策は景気抑制的で、需給の不均衡は是正に向かっており、年後半にはインフレの鎮静化が再開するとの見解を示した。原油の需要鈍化懸念などから、原油先物が週末にかけて続落した。

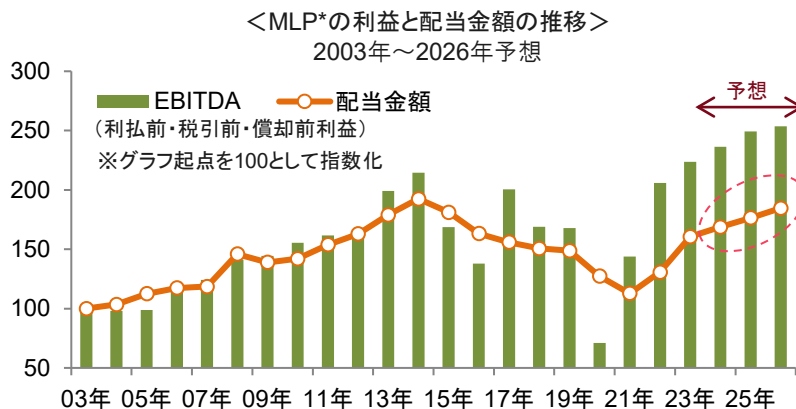
今後の注目点

6月11・12日に米国でFOMCが開催される。利下げ開始時期に市場の注目が集まる中、FOMC参加者の景気・金利見通しにおいて、どのような内容が示されるかが注目される。

MLPの配当金額見通し

2024年1-3月期の決算では、前年同期比で増配とするMLPが半数*を上回りました。なお、市場予想によると、MLPの配当金額は2024年以降も、増加が続く見通しです。

* S&P MLP 指数ベース



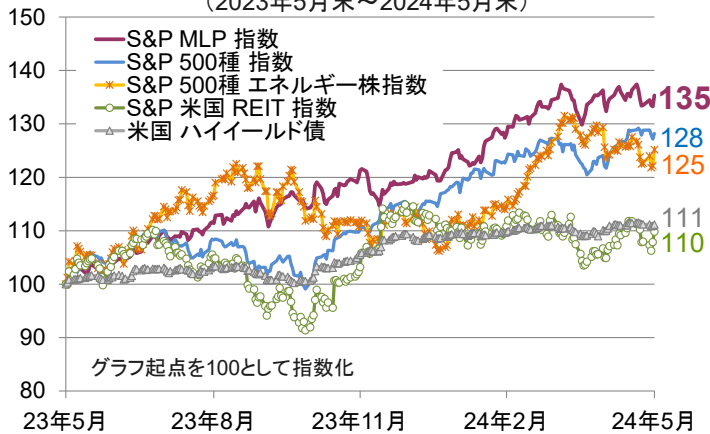
信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

※ 予想は2024年6月3日時点のコンセンサス予想

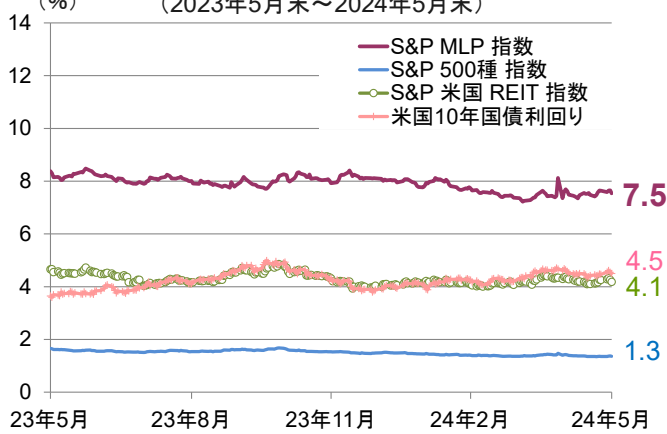
■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2023年5月末～2024年5月末)



■過去1年の各資産の利回り

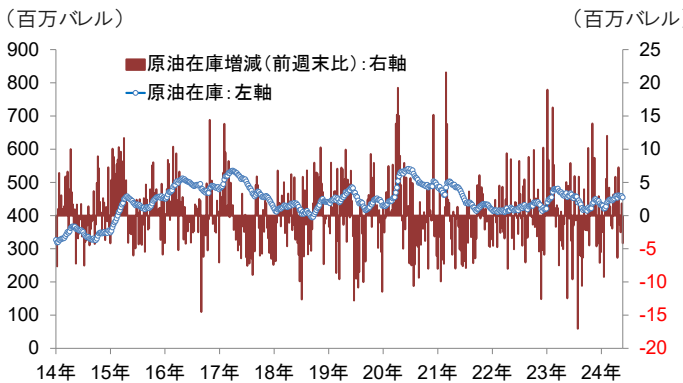
(2023年5月末～2024年5月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。

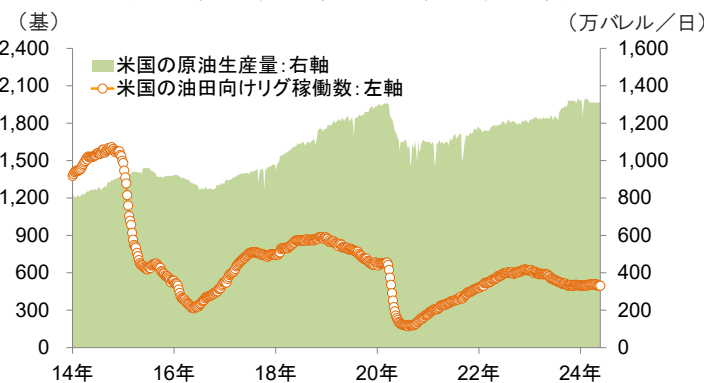
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2024年5月第4週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2024年5月第4週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2024年5月末)



*米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)
 ※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。